



# IMJ NEWS LETTER

発行: 一般社団法人 日本統合医療学会 本部 〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2 Email : [info@imj.or.jp](mailto:info@imj.or.jp) FAX : 03-3812-5167

## 「統合医療」はパラダイム・シフトである ～理事長挨拶～

一般社団法人日本統合医療学会  
理事長 仁田新一

今、世界の医療が置かれている状況はIT技術の革新的な進歩や世界のグローバル化によって一層の多様性が求められている中、人材の不足、方法論の不足、医療財源の不足や医用材料の不足が指摘されている。

これらを解決する方法の一つとして「統合医療」は世界的に注目され、中国、インド、韓国、米国などは伝統医療（TRM）や相補・代替医療（CAM）などをそれぞれ文化的財産、知的財産と位置づけ、国策としてビジネスとして展開しようとしている。

特に漢方薬の原材料でもある生薬の生産をほぼ独占している中国にその傾向が強く見られる。一方、日本では明治新政府による近代西洋医学偏重の医療政策によって意図的に排斥された我が国のTRM/CAMの知識が一部を除いて忘れ去られ、正当な評価を受けていないという、歴史的な「宿痾（しゅくあ）」を未だに抱え続けているのである。

このような実情を踏まえ、(社)日本統合医療学会は渥美名誉理事長の高邁なる精神力と類まれな実行力によって「統合医療」の科学的評価と臨床的実証を中心とした啓発・推進に邁進して来た。また、政財界に対しても精力的に「統合医療」の有用性に関する情報を機会ある毎に発信し、多方面に向けた普及・推進活動を展開して来た。

東日本大震災を経験して、医療はそのあり方自体を問われ、同時に進行癌などの難治性疾患に対しても近代西洋医学は限界を見せており、徒に「エネルギー資源の大量投入・消費」や「既存の科学技術」のみに頼る手法では解決出来ない問題の存在も改めて明らかになった。今まさに医療は喫緊の課題としてブレイク・スルーとパラダイム・シフトが求められているのである。

このことから、今後の医療の展開にはあらゆる有用な資源を有機的に統合して活用する「統合医療」の導入を時代が求めているのは明らかであり、近代西洋医学一辺倒による医療体制の限界が抱える問題の解決策の一つとしても脚光を浴びているのが「統合医療」である。

しかし、「統合医療」は科学的根拠付けと臨床的実証がなされていないとの誤解を受けていることも事実であり、慙愧の念に堪えない。



渥美名誉理事長からの襁を確りと受け取り、後任としての重責を全うするために、今後は(社)日本統合医療学会の各種委員会を活性化し、更なる“正しい「統合医療」”の啓発と普及の為、国策として「統合医療」の科学的根拠付けや臨床的実証、新しい方法論を開発する“場”創りにも努力を傾注する所存である。

その為にも、(社)日本統合医療学会に所属する認定医、認定師・士の皆さんには、我が国に於ける「統合医療」の**Leading Party**の一員として、技術や理念を磨くプロの集団であるとの自覚と向上心をお持ち戴きたいと願っている。  
言葉足らずではあるが拙文を以て理事長就任の挨拶とします。